



## 見沼たんぼくらのイベント

### 第104回見沼塾「見沼たんぼの昆虫」

「おーい、天狗を捕まえたよ！」

7月11日の炎天の空の下、大和田緑地公園特別緑地保全地区の斜面林の入口で、講師の牧林 功先生を囲んだ皆が呼んでいる。参加者は自分を含めて10名である。

頭に巨大な「？」を浮かべたまま駆け寄り捕虫網を覗くと、そこに居たのはテングチョウ。天狗の鼻のように見えるのは下唇のひげ。見れば見るほど個性的な顔立ちだ。



谷地に下りてトンボや水棲昆虫を探す。忙しなく泳ぐ小型のゲンゴロウは素早く捕獲ならず。数度水中に網を入れ白い容器に移すと、2センチほどのミズカマキリの子供がいた。なんとも覚束ない泳ぎ方だ。

牧林先生が、前日から谷地や林に数個の紙コップを埋めておかれた。夜間や早朝に移動する虫を捕まえるトラップであった。その一つに、驚くほど多くのオサムシが入っていた。鮮やかな緑色で、メタリックな光沢が美しい。手塚治虫が魅了され、ペンネームとしたのも頷ける。

オサムシの数が確保できたので標本の作り方をご指南頂いた。地球上で一番数も種類も多く、受粉を助け、餌となって他の生物の生命を支える昆虫。たとえ街中でも彼らはいつも身近にいる。美しくも謎の多いこの隣人達を知るために、標本は重要な手がかりとなるのだ。(木戸口 美香 記)

### 見沼ふれあい農園づくり 京芋・里芋・八つ頭・生姜栽培 ②

5月1日に植え付けた種イモが4ヶ月(9月1日)を過ぎ写真のように順調に育っています。今年は新農地での栽培で土壌が良くなく苗がうまく育つか心配されましたが、茎は太く葉も大きく茂っています。



株数は耕地面積1反2畝の畑に京芋5畝(うね)、里芋14畝、八つ頭16畝、生姜10畝でイモ類は一畝あたり40~45苗、生姜は55~60苗が植わっています。植え付け後の作業は2週間~3週間毎に除草を中心に5回実施され8月4日にすべて終了しました。後半2回はいずれも最高気温が35度超す例年にない暑さの中での草取りとなりました。なお、6月24日の3回目には(社会福祉法人)久美愛園14名の皆さんに、7月14日の4回目には埼玉県企画財政部新規職員等18名の皆さんに地域活動団体の体験研修として参加いただきました。

農作業最終日の8月4日には生姜のためし掘りを行い、立派な葉生姜を参加者に持ち帰りいただきました。今回は全6回の栽培工程を予定どおり進めることができましたので豊かな収穫となるよう期待しているところです。

秋の収穫日程は10月27日(火)にためし掘りを実施、11月16日(月)に収穫と福祉団体に寄贈予定です。(三上 雅央記)

## 見沼たんぼ地域の自然

小野 達二

NPO法人自然観察さいたまフレンド代表理事（自然観察&調査）

さいたま市みどり愛護会会長（森のボランティア）

見沼たんぼの原風景は、大宮台地縁の斜面林（雑木林と屋敷林）及び芝川低地の農地（水田と畑）を主体とする農村型自然いわゆる里やまです。ここに多様な動植物が生息・自生しています。

斜面林の手入れ放棄、農薬づけの農地、道路の舗装化、河川の三面コンクリート護岸、ゴミの不法投棄によって、自然破壊がなされてきました。しかし、市民団体による斜面林の保全、農家・市民団体による減農薬・無農薬の農法が自然復元をはじめています。

### 見沼たんぼの土

大宮台地のベースは、関東ローム層、芝川低地のベースは泥炭層です。これらの土壌は植物の生育に良いのですが、コンクリート・舗装の導入によって乾燥化・アルカリ化しますと、帰化植物が繁茂します。在来の植物は、弱酸性で湿り気のある土壌でないと育ちにくくなります。

【関東ローム層】 ローム（loam）とは土壌に含まれる砂と粘土の割合を示す土性を意味し、砂が1／3程度混じった粘土質の赤土層（黄褐色）のことです。今から数万年前に、富士・箱根・浅間の諸火山が噴火を続け、その火山灰が積もり積もって形成した無機質土壌です。

【泥炭層】 ガマ・マコモ・ヨシなどの湿性植物が枯死して永年にわたり堆積した低湿地帯の有機質土壌です。

### 見沼たんぼの水

湧水と川（芝川・加田屋川）と用水（見沼代用水東縁・見沼代用水西縁）と調節池と公園の池があります。

【湧水】 見沼区を中心に残っています。JR宇都宮線から県道さいたま・春日部線までの間では、芝川に流れ込む湧水が13ヶ所あります。芝川に流れ込む所で有機物汚染は極めて少なく、COD（化学的酸素要求量）は2～3ppmです。荒川上流の長瀬周辺の水質に匹敵します。

【見沼代用水】 江戸時代の中頃、見沼溜井に代わる水源として、行田の利根川から取水し、上尾で東縁と西縁に分流する農業用水が造成されました。

1970年代にコンクリート三面護岸の放水路にされ、水生の動植物は繁殖出来なくなりました。化学的水質調査ではCODが通常5ppmで、槻川の武蔵嵐山溪谷に匹敵しますが、生物学的水質調査では最悪です。

なお、見沼代用水西縁は荒川に分流し、水道水にも使われています。

【芝川】 桶川市を源とする農業排水路として整備された川で、見沼たんぼを貫流しています。蛇行する川の前原が残り、自然護岸が維持されています。しかし、生活排水が流れ込んでいるため、汚濁が酷くCODは10ppm以上となっています。

それでも、斜面林からの伏流水や湧水とヨシ群集のお蔭で溶存酸素が多く、ギンブナ・モツゴ（俗名クチボソ）・コイ（飼育種）などが繁殖しています。水辺のヨシ群集は多様な生き物の生存を保障しています。

因みに、芝川流域の野鳥は年間80種を確認しています。カワセミ・アオサギ・カイツブリも健在です。

## 見沼たんぼのみどり

斜面林、水田などの低湿地、畑、草原、都市公園があります。豊かな自然のバロメーターとなる絶滅危惧種は斜面林と水田などの低湿地に集中しています。荒地を中心にオオブタクサやセイタカアワダチソウなど大型の帰化植物が猛威を振るい、在来の野草の生育を妨げています。次に、私たちの活動地を中心に解説します。

【斜面林】斜面の地形にある森林を斜面林と言いますが、見沼たんぼには、シラカシを優占種とする常緑樹の多い屋敷林とコナラ・クヌギを優占種とする落葉広葉樹の多い雑木林があります。

相続税の物納や宅地造成で減少していますが、私たちの運動で、大宮市から引続きさいたま市で買取と借上げが少しづつ進んでいます。

都市緑地法に基づく特別緑地保全地区は、大和田緑地公園特別緑地保全地区（公有地化）、大和田町1丁目特別緑地保全地区（公有地化）など。

さいたま市条例に基づく自然緑地は、土呂自然の森（公有地化）、大和田2丁目緑地（借地）、南中丸緑地公園（公有地化）、春里自然の森（公有地化）、大牧自然緑地（公有地化）など。

\* 土呂自然の森・春里自然の森・大牧自然緑地は近く特別緑地保全地区に指定されます。

以上の斜面林は、さいたまのみどり愛護会のボランティア活動で豊かな森林が守られています。

地域住民の楽しい憩いの場、自然観察の場、環境教育体験学習の場として大きな役割を果たしています。

斜面林の多くは雑木林で、高木層＝コナラ・クヌギ・アカシデ・イヌシデ……、亜高木層＝エゴノキ・エノキ・ミズキ……、低木層＝アオキ・ヒサカキ・ガマズミ・ウグイスカグラ・ムラサキシキブ・ヌルデ・ニワトコ……、小低木層＝マンリョウ・ヤブコウジ・コウヤボウキ・サンショウ・クサボケ……があり、4階建てのマンションのような階層をつくり、多様な生き物の生存を保障しています。

1995年まで放置された雑木林は、暗い自然林に遷移をはじめ、下草が育たない状況にありました。それが私たちの保全作業によって、木漏れ日が林床を照らす程度の雑木林に復元し、希少植物が徐々に復元しています。

絶滅危惧種（埼玉県カテゴリー）ではアマナ・ウラシマソウ・エビネ・カタクリ・キンラン・ギンラン・サイハイラン・シュンラン・ヤマブキソウ・ワニグチソウなど。

私たちの言うさいたま市の注目種では、アキカラマツ・カシワバハグマ・キチジョウソウ・チゴユリ・ジュウニヒトエ・ツリガネニンジン・ヤマユリ・オオハナワラビ・フユノハナワラビ。

雑木林で下草刈りなどの保全作業をしていますと、しばしば、アオダイショウやアズマヒキガエルが飛び出してきて、「ここは野生の生き物の楽園なのだ。」と実感します。

何よりも嬉しいことは、まとまったみどりが多量の二酸化炭素を吸収し、新鮮な酸素と水蒸気とマイナスイオンを発散し、人間はじめ生き物の健康を守っていることです。

さらには、地球の温暖化に歯止めを掛けていることです

【低湿地・草原】 見沼1丁目・見沼2丁目・上山口新田・加田屋新田など無農薬の水田と周辺の草地には、母から子どもに伝えられてきた春の七草はじめ在来の野の花が健在です。

絶滅危惧種（埼玉県カテゴリー）では、アサザ・イチョウウキゴケ・イヌスギナ・カワヂシャ・キクモ・コイヌガラシ・コウホネ・サンショウモ・シロバナサクラタデ・タコノアシ・デンジソウ・ナガボノシロワレモコウ・ヌマトラノオ・ノウルシ・ハンゲショウ・ヒシ・ホシクサ・マツカサススキ・ミクリ・ミズワラビが自生しています。

水田の畦道を歩くと、絶滅危惧種のトウキョウダルマガエルが飛び跳ね、絶滅危惧種のマルタニシが顔を出すなどして、嬉しくなります。

夜道を歩くと、絶滅危惧種のホンイトチヤホンダヌキに遭遇します。

# 見沼たんぼ水彩スケッチ紀行

## 念仏橋

国道463号線（浦和・越谷線）と芝川が交わる場所。古くは一本の丸太橋だったので、誤って落ちる人が絶えず、そのため住民は念仏を唱えながら渡るのを常としたといわれる。現在は新見沼大橋有料道路がバイパスとして建設されたため、交通量は減少したが、それでも付近には「浦和くらしの博物館民家園」や「大崎公園」・「クリーンセンター」などがあり、重要な交通の要衝となっている。

## 絵と解説 八木一郎



## 刈り入れ後の稲ワラ回収作業（さいたま市見沼区

加田屋新田）

稲の刈り入れ後、ヒコバエの間にある稲わらを農機（ロールベラー）で集める風景が見沼田圃にもみられる。

このようにして出来た「牧草ロール」（北海道などでの表現）は、当地では野菜畑の肥料などに利用される。空の雲からも、秋も終わりに近づく気配が感じられた。



## 見沼田圃・体験水田の案山子

（加田屋新田 2014年9月27日 画）

刈り入れが終わり、役目を終えた案山子の群像。

これは県の土地水政策課とNPO法人「見沼ファーム21」により、毎年行われる稲の植え付けから刈取りまでの作業の一環として、参加した多くの人々のご苦勞により作られたもの。

「妹がすべって 転んで 泥だらけ」

「カブトエビ すいすい泳ぐ 楽しそう」

一年を通してお米づくりに励んできた、厳しくも充実した親子の思いが案山子の面にも出ているようだ。



## 見沼たんぼくらぶ会員作品展

### 氷川の杜・竹林の庭

作者 小山幸子

「氷川の杜文化館」は大宮氷川参道沿いに造られた伝統文化の拠点施設。その竹林の素敵な庭を描いてみたくて、挑戦してみました。

冬の寒い日でしたが晴れていて、竹林の間から差し込んでくる木漏れ日、竹と竹との重なり光と影、また奥に見える門など魅力的な配置でしたが、その感じを筆で表現することの難しさを感じました。



# 見沼たんぼ探訪記

## 氷川参道を歩く

今年の夏の暑さは格別であり、来る日も来る日も猛暑日が続く、テレビや新聞でも「熱中症に注意、水分の補給を忘れずに」と呼びかけている。

8月中旬のある日、氷川参道を「一の鳥居」から神社本殿に向けて歩く。この参道は約2kmといわれ、日本一長い参道とも言われている。参道に沿って朱色の姿の3基の鳥居が設置されている。「一の鳥居」がJRさいたま新都心駅近くの参道入り口、「三の鳥居」が境内の入口、「二の鳥居」はその中間に当たる旧国道16号線脇にある。中でも二の鳥居は高さ13m、幅17mもあり、明治神宮から奉納され日本最大級の鳥居とされている。

参道途中には、「氷川参道平成ひろば」があるが、戦後、闇市があった所だ。この広場は氷川地区参道整備事業によって昭和60年から平成元年に掛けて整備され、延長420m、面積1.4haの規模で完成した広場で、「市民の憩いの場」として知られている。参道に並ぶ高木がおよそ650本あり、スダジイ、クスノキ、エノキ、サクラ・・・等が見られるが、ケヤキが最も多く約65%という。こうした樹木にすっぽりと覆われた参道は、正に緑のトンネルを作り、私たちに緑陰を提供してくれ、暑い真夏の陽射しから守ってくれる。さらに、風の通る自然の空間にもなっ



ていて冷たい風が流れ込んでくる。こうした参道をゆっくり歩くと、暑さなど一掃に吹き飛ばしてしまい元気が湧いてくる。

車の音や人ごみに囲まれた騒々しい街のど真ん中に、このような緑のオアシスがあるという事はなんと恵まれた事であろうか。(召田 紀雄記)

## 見沼たんぼ一古民家のスケッチ展 植木 秀視個展を訪ねて

見沼たんぼくらぶ会員で、以前『みぬま通信』に植物画を寄稿いただいた植木秀視さんの個展である。去る7月16日～30日に浦和駅西口の和真メガネ浦和本店ギャラリーで開催された。

見沼たんぼ地域に残る古民家や長屋門、蔵の風景を水彩絵具や色鉛筆を使って描いた20点ほどの作品である。



私は、なかでも、庶民の暮らしていた古民家の風景に惹かれた。文化財に指定されている神社仏閣や豪族の屋敷は、威風堂々として頑丈な建造物が多い。

それに引き替え、庶民の暮らしていた古民家は自然のみどりに溶け込んで、ふんわりと優しい佇まいをしている。

私は、見沼たんぼくらぶ・NPO法人自然観察さいたまフレンドのリーダーとして、見沼の自然と史跡を訪ねるハイキングを300回以上も体験してきたが、植木さんが描いたような古民家は1軒しか見ていない。誠に恥ずかしい限りである。

植木さんが、これだけ多くの古民家を発見できたのは、ハイキングコースから外れて、田舎道を縦横無尽に歩き回った結果であろう。

(小野 達二記)

# 見沼たんぼの仲間たちNo.35

## 久美工房（社会福祉法人 久美愛園）

### 久美愛園 三室ファーム

宮沢康弘

社会福祉法人 久美愛園は、キリスト教精神に基づいて、知的障害のある人たちが、豊かな人生を送れるように支援している福祉施設です。

障害者支援施設 めぐみ園・互助の里をはじめ、障害児入所施設の久美学園、グループホームの久美彩ホームなどの事業を行っています。その中で、久美工房は、利用者さんの日中の作業支援をしています。

作業は三室ファーム～農作業、ワーク四季～室内軽作業、はっぴい工房～パン、クッキー作りの3つに分かれています。

それぞれの活動の中で、生活支援や製作を通し生きがいや働く喜びが感じられるよう、社会参加に向けた支援を行っています。

三室ファームは、現在さいたま市に5ヶ所の農場 約5000㎡を持ち、1年間に約25種類の野菜の栽培、収穫、販売をしています。収穫した野菜は法人内の給食課への販売、地域バ



ザーでの販売、店舗での販売を行い、収益は利用される方々への工賃として支払われています。

ワーク四季では、受注作業（チラシの封入など）、仕分け作業（主に紙製品の廃品リサイクル分別）など3つのグループに分かれて作業を行っています。昨年改築したばかりの新しい作

業室で、やりがいのある仕事を毎日忙しく行っています。

はっぴい工房は現在8人の利用者と4人の支援員で作業をしています。作業内容はパン・焼き菓子の生産・包装・販売を行っています。久美愛園敷地内や近隣のバザー等で販売、さいたま市内の保育園への納品などしております。

はっぴい工房のパンやクッキーは全ての作業工程で利用者さんが関わり手作りしています。私たちのつくる食パンやクッキーは保存料などの余計な添加物を使用しない、美味しく優しいパンとクッキーです。

今年の6月には、第17回彩の国セルプまつりにて、大宮パレスホテル主催の第6回焼き菓子コンテストが行われ、はっぴい工房の「ショコラーデみかん」が3位に入賞しました。現在、はっぴい工房店舗にて好評、販売中です。



見沼たんぼくらぶさんとは、3年前、里芋の収穫体験に声をかけて頂いたことがきっかけで交流がはじまりました。作業を通じて、地域の方々と貴重な体験ができ、とても感謝しております。

昨年、久美工房の作業棟が新しくなりました。その一角にはっぴい工房の店舗（電話(048)873-2022：営業平日10～17時）があります。三室ファームからの新鮮な野菜とクッキーやパンが店いっばいに並んでいますのでお近くにお越しの際には、ぜひお立寄りください。よろしく、お願いいたします。

# 見沼たんぼを支える農家さん

## 細沼武彦さん

東武線大和田駅から大宮商業高校を経て、見沼たんぼの手前、高台にある細沼さん宅は代々の農家で、武彦さんは10代目に当たります。

今ではすっかりお馴染みとなった直売所ですが、市内（当時は大宮市）で初めてできた大和田直売所は、消費直結型の都市農業の形として、昭和63年に細沼さんが中心となって立ち上げました。最初は朝採りトウモロコシでアピール。鮮度の良さが確実に味に反映されて、人気は上々。これで、それまでやや懐疑的だった農家側のやる気も一気に上がりました。

地元の旬の農産物を扱うわけですから、どうしても時期を外れたものは揃えられない。でも品揃



（細沼武彦さん）

えが豊富でないとお客は来てくれない。そこで、スーパーの隣に着目。これなら足りないものはスーパーで買え、駐車場も利用できる。駅にも近いので実に

便利です。「買う側から考えたら、そうだった」と細沼さんはさりげなく言いますが、反対側からの目線というのはなかなか気が付かないものです。

「作物の立場で考える」という細沼さんが、米作りに「ポット苗」を導入したのもその頃です。品質が良く、かつ収量の多い米の作り方を模索して行き着いたのがポット苗でした。ご夫婦で福島の農家まで見学にも行きました。一般的には種籾を平らな育苗箱にばら蒔いて苗をつくりませんが、これは小さなポット状のへこみのある育苗

箱に、ポット毎に1～2粒の種籾をまいて苗を作ります。手間はかかりますが、1粒あたりの面積が広いと土の養分をしっかりと吸収、また隣の種籾との間隔が広いと光や風を十分に受けて光合成が進み、しっかりとした苗が育つと言われていいます。一粒の種籾の生命力を最大限に生かした方法といえます。

消費者との連携は農業者にとっての生きる道でもある、と語る細沼さんは、これまで長い間、



（大和田直売所）

地域の自治会や学校、市民団体などの様々な農業体験活動を支えてきました。手間も時間もかかる活動に忍耐強く協力してくれる農業者の存在がなければ、市民が「農」に係わる活動をするにはほとんど不可能といえます。

また長年、市議員としても地域課題に関わってこられました。この間しっかりと細沼家の農業を支えてこられた奥様と二人三脚で、今はまた農業委員会委員としてその広い視野を生かして下さることでしょう。

やっぱりチャレンジだよ、という細沼さんの言葉が、何日も続く8月末の鬱々とした曇天を払ってくれるようでした。

（取材：島田・高橋、 記：高橋）

・大和田直売所：見沼区大和田町1-1634（大和田駅南側踏切を渡って徒歩2分スーパーマルエツ横）、火・木・土 13：30～17：30

## 見沼たんぼくらのイベント案内

### 第6回見沼たんぼ清掃ボランティア

日時：11月3日（火・祝）10時～12時

集合・解散地：市民の森 見沼グリーンセンター

コース：見沼たんぼ北西部の芝川流域

神明下橋～石橋（大宮体育館下）周辺

申込み：当日、集合地で9時30分から受付

参加費：無料（記念品見沼たんぼの恵み進呈）

交通：JR宇都宮線土呂駅東口、徒歩6分

\* 市民の森に駐車場あり

### 斜面林の体験学習『落葉かき等』

日時：12月13日（日）9時30分～12時

集合：さいたま市立大宮体育館正門

■ 大宮体育館南側に広がる見沼最大の斜面林で、幼児からお年寄りまで体験できる軽作業

申込み：当日、集合地で9時から受付

参加費：無料

交通：東武野田線大和田駅から徒歩15分

## 会員の主宰するイベント情報

### 第233回見沼たんぼの自然観察会

日時：10月31日（土）13時～16時

集合・解散地：合併記念見沼公園管理棟

主催：NPO法人自然観察さいたまフレンド

■ 木の実ウォッチング等テーマ別数グループに分かれて当公園や見沼代用水西縁と芝川周辺を散策する自然観察会です。

申込み：当日、集合地で12時30分から受付

参加費：¥500（ただし、中学生以下無料）

交通：大宮駅東口からバス④自治医大行き

終点下車、徒歩2分（自治医大の南側）

大宮発12時 or 12時30分（約10分乗車）

### 自然観察ハイキング『浮間公園の野鳥と植物』

日時：11月29日（日）9時～12時

集合地：埼京線浮間舟渡駅前

主催：NPO法人自然観察さいたまフレンド

申込み：当日、集合地で8時30分から受付

参加費：¥500

（ただし、中学生以下無料）

## 見沼たんぼくらぶ入会を勧めます！

見沼たんぼをもっと知りたい

見沼たんぼの自然にふれてみたい

見沼たんぼで何かしたい

見沼たんぼの保全に協力したい

そんな皆さまをお待ちしています！

■ 季刊『みぬま通信』をお届けします。

4月・7月・10月・1月発行

■ 埼玉県土地水政策課の支援のもと、見沼たんぼ地域の里やまで、様々の体験事業を展開しています。子どもから年寄まで気軽に楽しめるイベントです。

○…見沼ふれあい農園づくり

農地はスタッフが耕運し、畝づくりを済ませ、種蒔き・植付から除草、収穫までの作業です。

「京芋・里芋・八つ頭栽培」や「秋野菜栽培」などを楽しみ、福祉施設にも寄贈しています。

○…自然観察ハイキング

自然観察指導員のガイドで、年4回、史跡を巡りながら花や鳥など見て回ります。

○…見沼たんぼ清掃ボランティア

○…斜面林の体験学習

○…見沼塾—見沼の自然や文化を学ぶ講座

■ 年会費 個人（同居の家族単位）・団体・

企業とも1口¥1,000（団体・企業は3口以上）

## みぬま通信第64号

発行日 平成27年10月1日

発行所 見沼たんぼくらぶ

〒337-0053 さいたま市見沼区大和田町

1-2124-3 小野方

TEL・FAX (048) 683-1764

E-mail t.ono@axel.ocn.ne.jp

URL <http://minumatanbo.web.fc2.com/>

© 2015 Minuma Tuusin